

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
共通基盤型原子力研究プログラム
事後評価総合所見**

研究課題名：汚染土壌の減容を目的とした重液分離による放射性微粒子回収法の高度化
 研究代表者（研究機関名）：山崎 信哉（筑波大学）
 研究期間及び研究費：平成 30 年度～令和 2 年度（3 年計画） 15 百万円

項目	要 約
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所の事故により生じた汚染土壌の減容化を目指すための新規手法の開発として、放射能の原因の一部となっている放射性セシウム含有粒子を汚染土壌から分離・回収を行うため、比重に着目した分離法について検討を行う。パルク土壌から簡便な操作で放射性セシウム含有粒子を分離する方法について試験を行い、試験対象とする汚染土壌の放射能濃度および重量を 50% 減とすることを到達目標とすることを目的として、以下の項目を行う。</p> <p>1) 重液分離による放射性微粒子分離法の高度化 2) ランニングコストを低減するための重液の回収、再利用に関する検討</p>
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚染土壌の減容は社会のニーズがあり、重液を用いて放射性微粒子を選択的に分離するアプローチは新規性がある。 ・一方、重液による分離は、土壌の特性に依存する部分があり、現状、これらの影響を考慮し、実用化に直接結びつく状態には至っていないと考えられる。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>